

教員選考調書

令和7年9月

神戸大学大学院経済学研究科

就こうとする職名	専任兼任の別	担当講座又は学科目	毎週授業時数	最終卒業学校名 学部名及び学科名 卒業年次	学位・称号	著書 学術 論文数	性別	ふりがな 氏名
教授	専任	計量・統計分析講座	3.5	Graduate School of Economics, University of North Carolina at Chapel Hill 平成26年5月	Ph.D.	15	男	もてぎ かいじ 茂木 快治

略 歴

学 歴	平成16年3月	早稲田大学本庄高等学院	卒業
	平成16年4月	早稲田大学政治経済学部経済学科	入学
	平成20年3月	早稲田大学政治経済学部経済学科	卒業(総代)
	平成20年4月	早稲田大学大学院経済学研究科修士1年コース	進学
	平成21年3月	早稲田大学大学院経済学研究科修士1年コース	修了(総代)
	平成21年8月	ノースカロライナ大学チャペルヒル校経済学部 Ph.D. 課程	入学
	平成26年5月	ノースカロライナ大学チャペルヒル校経済学部 Ph.D. 課程	修了(Ph.D.)

職 歴	平成26年6月	～ 平成27年3月	早稲田大学政治経済学術院 助手
	平成27年4月	～ 平成28年9月	早稲田大学政治経済学術院 助教
	平成28年10月	～ 令和2年3月	神戸大学大学院経済学研究科 講師
	令和2年4月	～ 現在	神戸大学大学院経済学研究科 准教授

賞罰・処分歴等	平成26年9月	統計関連学会連合大会コンペティション・セッション	最優秀報告賞
	平成29年3月	日本統計学会春季集会ポスターセッション	優秀発表賞
	令和元年9月	第33回日本統計学会小川研究奨励賞	
	令和2年1月	令和元年度優秀若手研究者賞, 神戸大学	
	令和3年11月	第三回細谷賞, 東北大学大学院経済学研究科	
	令和6年7月	第13回(令和6年度)前之園記念優秀若手論文賞, 一般財団法人敬愛まちづくり財団, 神戸大学	

所属学会 Econometric Society, American Economic Association, 日本経済学会, 日本統計学会

以上

著書及び論文目録	発表年月	発表雑誌等の名称	備考
著書(分担執筆)			
1 『ファジィ理論—基礎と応用』 山下元監修, 瀧澤武信編著	2010.8	共立出版	第5.7節「金融経済分析」担当. 共著者: 新海公昭
査読付き英文学術雑誌掲載論文			
1 A groupwise approach to the birthday paradox	2025.4	Communications in Statistics – Theory and Methods	共著者: S. Hayashi
2 Conditional threshold effects of stock market volatility on crude oil market volatility	2025.3	Energy Economics	共著者: S. Hamori
3 A note on the exponentiation approximation of the birthday paradox	2024.1	Communications in Statistics – Theory and Methods	共著者: S. Woo
4 Inter-regional dependence of J-REIT stock prices: A heteroscedasticity-robust time series approach	2023.1	North American Journal of Economics and Finance	共著者: Y. Iitsuka
5 A unified framework for efficient estimation of general treatment models	2021.7	Quantitative Economics	共著者: C. Ai, O. Linton, Z. Zhang
6 Copula-based regression models with data missing at random	2020.11	Journal of Multivariate Analysis	共著者: S. Hamori, Z. Zhang
7 Moving average threshold heterogeneous autoregressive (MAT-HAR) models	2020.11	Journal of Forecasting	共著者: X. Cai, S. Hamori, H. Xu
8 A max-correlation white noise test for weakly dependent time series	2020.10	Econometric Theory	共著者: J. B. Hill
9 Testing a large set of zero restrictions in regression models, with an application to mixed frequency Granger causality	2020.10	Journal of Econometrics	共著者: E. Ghysels, J. B. Hill
10 Calibration estimation of semiparametric copula models with data missing at random	2019.2	Journal of Multivariate Analysis	共著者: S. Hamori, Z. Zhang
11 Testing the white noise hypothesis of stock returns	2019.1	Economic Modelling	共著者: J. B. Hill
12 Sluggish private investment in Japan's Lost Decade: Mixed frequency vector autoregression approach	2018.1	North American Journal of Economics and Finance	共著者: A. Sadahiro
13 Testing for Granger causality with mixed frequency data	2016.5	Journal of Econometrics	共著者: E. Ghysels, J. B. Hill
その他の学術論文			
1 混合頻度ベクトル自己回帰モデルとグレンジャー因果性検定	2020.9	日本統計学会誌	日本統計学会小川研究奨励賞特別寄稿論文. 単著
国際学会・セミナー報告			
1 EcoSta Conference 2025	2025.8	Waseda University	Invited speaker
2 日本銀行金融研究所セミナー	2025.7	日本銀行金融研究所	招待講演
3 100th Annual Conference of WEAI	2025.6	Virtual session	
(次頁へ続く)			

著書及び論文目録	発表年月	発表雑誌等の名称	備考
国際学会・セミナー報告(続き)			
4 第92回丸の内QFセミナー	2024.11	東京都立大学	招待講演
5 9th Annual International Conference on Applied Economics in Hawaii	2024.9	Honolulu, Hawaii	Invited speaker
6 Singapore Economic Review Conference 2024	2024.8	voco Orchard Singapore	
7 NTU Economics Seminar	2024.7	Nanyang Technological University	Invited speaker
8 99th Annual Conference of WEAI	2024.6	Virtual session	
9 International Conference on Time Series Econometrics	2024.3	Kobe University	Organizer, chair
10 EcoSta Conference 2023	2023.8	Waseda University	Scientific program committee member, session organizer
11 98th Annual Conference of WEAI	2023.7	Virtual session	
12 17th International Conference of WEAI	2023.4	Virtual session	
13 7th Annual International Conference on Applied Economics in Hawaii	2022.11	Virtual conference	Organizer
14 2022 AMES in East and South-East Asia	2022.8	Virtual session	
15 SETA Conference 2022	2022.7	Virtual session	
16 EcoSta Conference 2022	2022.6	Virtual session	Session organizer
17 6th Annual International Conference on Applied Econometrics in Hawaii	2021.11	Virtual conference	Organizer
18 「第三回細谷賞」受賞記念講演	2021.11	東北大学	招待講演
19 Departmental seminar, Department of Economics	2019.9	University of Essex	Invited speaker
20 2019年度統計関連学会連合大会	2019.9	滋賀大学	「第33回日本統計学会小川研究奨励賞」受賞記念講演
21 SETA Conference 2019	2019.6	Osaka University	
22 15th International Conference of WEAI	2019.3	Keio University	
23 Essex Centre for Macro and Financial Econometrics Seminar Series	2019.1	University of Essex	Invited speaker
24 88th Annual Meeting of Southern Economic Association	2018.11	Washington DC	Presidential session, invited speaker
25 UNC Econometrics Seminar	2018.11	UNC Chapel Hill	Invited speaker
26 Departmental Seminar, Institute of Statistics and Big Data	2018.8	Renmin University of China	Invited speaker
27 Departmental Seminar, Department of Statistics and Actuarial Science	2018.6	University of Hong Kong	Invited speaker
28 EcoSta Conference 2018	2018.6	City University of Hong Kong	Session organizer
(次頁へ続く)			

著書及び論文目録	発表年月	発表雑誌等の名称	備考
国際学会・セミナー報告(続き)			
29 Economics and Economic Growth Centre Seminar Series	2018.1	Nanyang Technological University	Invited speaker
30 3rd Annual International Conference on Applied Econometrics in Hawaii	2017.9	Honolulu, Hawaii	Invited speaker
31 4th Annual Conference of IAAE	2017.6	Sapporo, Hokkaido	
32 EcoSta Conference 2017	2017.6	HKUST	Session organizer
33 50th Anniversary Seminar, Department of Statistics and Actuarial Science	2017.6	University of Hong Kong	Invited speaker
34 第11回日本統計学会春季集会	2017.3	政策研究大学院大学	ポスターセッション 優秀発表賞
35 UNC Econometrics Seminar	2017.2	UNC Chapel Hill	Invited speaker
36 2016 NBER-NSF Time Series Conference	2016.9	Columbia University	
37 2016 Asian Meeting of the Econometric Society	2016.8	Doshisha University	
38 第10回日本統計学会春季集会	2016.3	東北大学	ポスターセッション 優秀発表賞
39 Recent Developments in Time Series and Related Fields	2015.12	Tohoku University	Invited speaker
40 2015年度統計関連学会連合大会	2015.9	岡山大学	コンペティション・ セッション優秀報告 賞
41 11th World Congress of the Econometric Society	2015.8	Montreal, Canada	
42 SETA Conference 2015	2015.5	Hitotsubashi University	
43 25th (EC) ² Conference: Advances in Forecasting	2014.12	Universitat Pompeu Fabra	
44 2014 NBER-NSF Time Series Conference	2014.9	Federal Reserve Bank of St. Louis	
45 2014年度統計関連学会連合大会	2014.9	東京大学	コンペティション・ セッション最優秀報 告賞
46 2013 NBER-NSF Time Series Conference	2013.9	Federal Reserve Board	
47 2013 North American Summer Meeting of the Econometric Society	2013.6	University of Southern California	

過去5年間の担当 科目名 (学部・大学院の別)	担当年度・学期	特に工夫した点など	備 考 (授業評価の結果など)
研究指導Ⅰ(学部)	2025年度・通年	計量経済学の理論の学習とRによるプログラミング実習を並行して行っている。	
演習(大学院)	2025年度・後期	学生の主体的な研究進捗報告を奨励するとともに、教員本人も適宜報告を行う予定。	
統計学(学部)	2025年度・前期	スライドを刷新し、グループディスカッション、問題演習、定期試験振り返りなど、新しい工夫を数多く導入した。	学部1年次必修科目。 授業振り返りアンケートで高評価を得た。
基礎演習(学部)	2025年度・前期	グループワーク、図書館見学ツアー、新聞記事検索、ゼミ生との共同論文の紹介など、大学生活を豊かにするための工夫を導入した。	学部1年次必修科目。 授業振り返りアンケートで高評価を得た。
演習(大学院)	2025年度・前期	学生の主体的な研究進捗報告を奨励するとともに、教員本人も適宜報告を行った。	
演習(大学院)	2024年度・後期	博士後期課程進学を念頭に置いた研究指導を行い、学会参加の手引きも行った。ゼミ生は学会発表を行い、後期課程へ進学した。	リープ期間につき不開講予定だったが、急遽中村保ゼミ生を受入。
演習(大学院)	2024年度・前期	博士後期課程進学を念頭に置いた研究指導を行い、学会参加の手引きも行った。	リープ期間につき不開講予定だったが、急遽中村保ゼミ生を受入。
研究指導Ⅱ(学部)	2023年度・通年	羽森ゼミと合同で卒業研究報告会を行った。	優秀卒業論文賞受賞者を輩出。
演習(大学院)	2023年度・後期	修士論文完成のために、計量分析や論文執筆など様々な角度から指導を行った。	
計量経済学B(大学院)	2023年度・後期	回帰分析の基礎を厳密に教授した。グループディスカッションなどを導入し、出席率を高く保つことに成功した。	コア科目、学部上級科目。授業振り返りアンケートで高評価を得た。
基礎演習(学部)	2023年度・Q2	グループワーク、図書館見学ツアー、新聞記事検索、ゼミ生との共同研究の紹介など、大学生活を豊かにするための工夫を導入した。	学部1年次必修科目。 受講者との共同論文出版を実現。
初年次セミナー(学部)	2023年度・Q1	グループワーク、図書館見学ツアー、新聞記事検索、ゼミ生との共同研究の紹介など、大学生活を豊かにするための工夫を導入した。	学部1年次必修科目。
演習(大学院)	2023年度・前期	修士論文完成のために、計量分析や論文執筆など様々な角度から指導を行った。	
研究指導Ⅰ(学部)	2022年度・通年	計量経済学の理論の学習とStataによるプログラミング実習を行った。	
研究指導Ⅱ(学部)	2022年度・通年	卒業論文完成のために、計量分析や論文執筆など様々な角度から指導を行った。	最優秀卒業論文賞受賞者を輩出。
演習(大学院)	2022年度・後期	修士論文完成のために、計量分析や論文執筆など様々な角度から指導を行った。ゼミ生は修士論文研究の成果を学会で発表した。	
Analysis of Stationary Time Series (大学院)	2022年度・後期	スライドを刷新し、定常時系列分析の基礎を丹念に教授した。	英語科目。

(次頁へ続く)

演習(大学院)	2022年度・前期	修士論文完成のために、計量分析や論文執筆など様々な角度から指導を行った。	
研究指導 I (学部)	2021年度・通年	計量経済学の理論の学習と英語資料に基づく現実経済の調査研究を行った。	ゼミ生との共同論文出版を実現。
研究指導 II (学部)	2021年度・通年	卒業論文完成のために、計量分析や論文執筆など様々な角度から指導を行った。	
演習(大学院)	2021年度・後期	修士論文完成のために、計量分析や論文執筆など様々な角度から指導を行った。	ゼミ生との共同論文出版を実現。
Analysis of Nonstationary Time Series (大学院)	2021年度・後期	スライドを刷新し、非定常時系列分析の基礎を丹念に教授した。	英語科目。
計量経済学(学部)	2021年度・前期	スライドを刷新し、Excel によるデータ分析の実演などオンデマンドの長所を生かした授業を行った。	授業振り返りアンケートで高評価を得た。
演習(大学院)	2021年度・前期	修士論文完成のために、計量分析や論文執筆など様々な角度から指導を行った。	

授業以外の教育に関する特記事項

年度(学期)	内容	備考
2024年度後期	時系列分析に関する連続講義	横浜市立大学, 90分 × 6コマ
2022年度前期	神戸大学Dayにおけるガイダンスおよび講義	神戸大学附属中等教育学校
2015年度前期	早稲田大学ティーチングアワード	早稲田大学, ミクロ経済学入門

管理運営業務に関する実績

担当業務	年度(学期)	概要	備考
選抜委員	2025年度	執行部に加わり、経済学研究科および経済学部の入学試験に関わることを全般を担当した。特に、大学院ウェブ出願システムの導入や経済数理データ科学専攻の新規設置への対応にあたった。	経済学部が大学入学共通テスト当番の年度。
国際交流委員会内、学生派遣小委員会委員長	2023年度	経済学研究科および経済学部から海外協定校への交換留学を担当し、学生の派遣に係るガイダンス、審査、指導助言を行った。	
学生委員	2022年度	執行部に加わり、経済学研究科および経済学部の学生に関わることを全般を担当した。特に、病気・怪我・経済的理由等で修学に支障をきたしている学生のケアにあたった。	

学外活動(学会活動、社会貢献など)

年度(学期)	内容	備考
2026年度	Scientific Program Committee Member, EcoSta Conference 2026	Ryukoku University, Scheduled
2025年度	日本経済学会2025年度春季大会, ネットワーキング・セッション, メンター	中京大学
2023年度	Scientific Program Committee Member, EcoSta Conference 2023	Waseda University
2021～2022年度	科学研究費助成事業審査委員, 審査第四部会(若手研究), 第07030小委員会(経済統計関連)	独立行政法人日本学術振興会
2021～2022年度	統計関連学会連合大会プログラム委員	統計関連学会連合
2021年度	「コロナ感染状況の傾向はなぜ日米で異なるのか?」, 経済学者が読み解く現代社会のリアル(第147回), 『週刊東洋経済』	2022年1月15日号, pp. 78-79, 東洋経済新報社
2017年度～現在	Associate Editor, Singapore Economic Review	SSCI 該当誌, 2024 Impact Factor = 1.2
2017年度	「異分野 Cross Talk」/パネリスト, 吉田育英会会報誌『環(WA)』創刊号, 公益財団法人吉田育英会	
2014年度	「5年間の米国大学院留学を終えて」, ブログ記事, 公益財団法人吉田育英会	